

令和2年3月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

青梅市内にもある「川廻し」^{かわまわ}

「川廻し」^{かわまわ}とは、曲がって流れる川(流路)の一部をショートカットし、それまで流路であった場所を水田に変えることで、千葉県の上総丘陵で多く見られ有名である。それまでの旧流路は「ふるかわ」、新しく開削された流路は「しんかわ」、そしてショートカットされたため取り残された場所は「なかしま」と呼ばれている。川廻しによって新しく生まれた土地は水田に利用され、コメの栽培・収穫に役立った。このようにして、かつての河原が水田に生まれ変わった土地が、青梅市内には2か所に残っている。

(1) 成木三丁目の中河原

市立成木小学校の東側にある、平面形が人の「耳たぶ」のような状態で広がっている土地が、「川廻し」の土地である(図-1)。現地で地形をよく観察すると、図に示されているように、道路に沿って水田が曲がって延び、その内側は畑地になっている。この水田の部分がかつての河床で「ふるかわ」、畑地は「なかしま」である。川廻しによって新しく開かれた耕作地は、約2町(約2万㎡)の面積である。

道路の直下には用水路が延び、取水口は小学校前の信号下を通過して、南方の山麓から来ている。階段と小道があるので上流へ向うと、岩肌が露出した現在の成木川「しんかわ」に着く。「しんかわ」の両岸には急峻な岩肌が露出し、下流の北東方へ延びている。

ここで川廻し工事が行われ、完成したのは明治3(1870)年であった。「しんかわ」の開削工事は約20年間に亘って行われたと伝えられることから、幕末の嘉永3(1850)年頃に始まったと考えられ、文久2(1862)年の領収書が残されている。今から約150年前の人たちが、岩壁の流路をすべて掘ったと思うと、当時の成木の人たちの苦労がしのばれる。

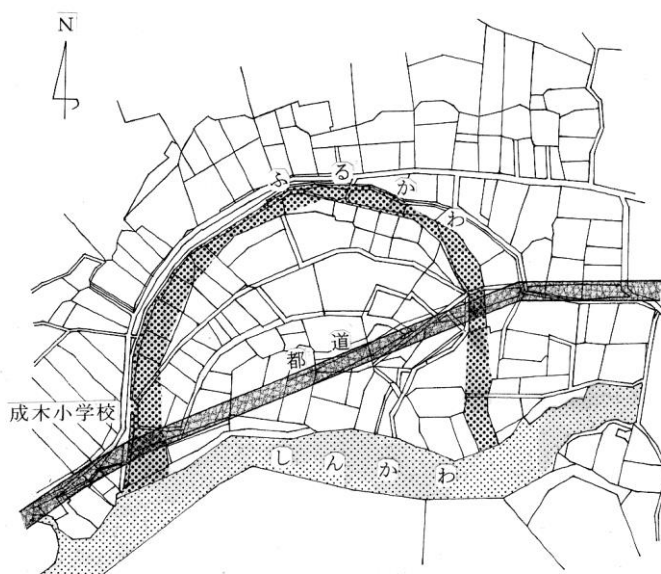


図-1 成木三丁目の川廻し

(2) 野上町一丁目の川廻し

霞川の上流に沿って広がる低地は、市立第四小学校の北側から東方へ、山根通りの南側に続く高さ 40～50 cm の小さい坂を境として、段丘面と低地に分けられる。低地は昭和 40 (1965) 年頃まで、水田として利用されていた。

公札橋 (正確には「高札橋」である) 付近より下流側の地形をよく観察すると、付近で最も低い場所 (凹地) は霞川の近くではなく、畑地の中を東西方向に延び、霞川の現在の流路から 10m 以上離れ、東方に向うに従って離れは大きい (注)。低い場所 (凹地) は水に恵まれているため、水田として耕作されることが多い。図-2 は古い地図に載っている、付近の水田分布図であるが、現地の地形と水田分布は調和的で、かつては水田の位置を東方へ霞川が流れ、その後の川廻しによって、かつての霞川の流路付近が水田に変わったことを示している。現在、水田があった場所には数条の水路が残し、付近の地質も、川廻しが行われたことを示している。川廻しが行われた工事の時期についての史料は、残念ながら残されていないが、「文久堀」と呼ばれる堀があることから、文久年間 (1861～1864) あるいはそれ以前とも考えられる。

なお、成木三丁目・中河原の川廻しについては、市立図書館にある下記の図書に詳しい。

新井喜一 (1989) 『東京都史跡成木熊野神社と天水桶』。136 ページ。(自費出版)。

注：台地の縁に沿う現在の流路は、昭和 30 年頃以降、東京都西多摩建設事務所によって改修作業が行われた結果で、ここでは、それ以前の状態について述べている。

(文責：角田清美)

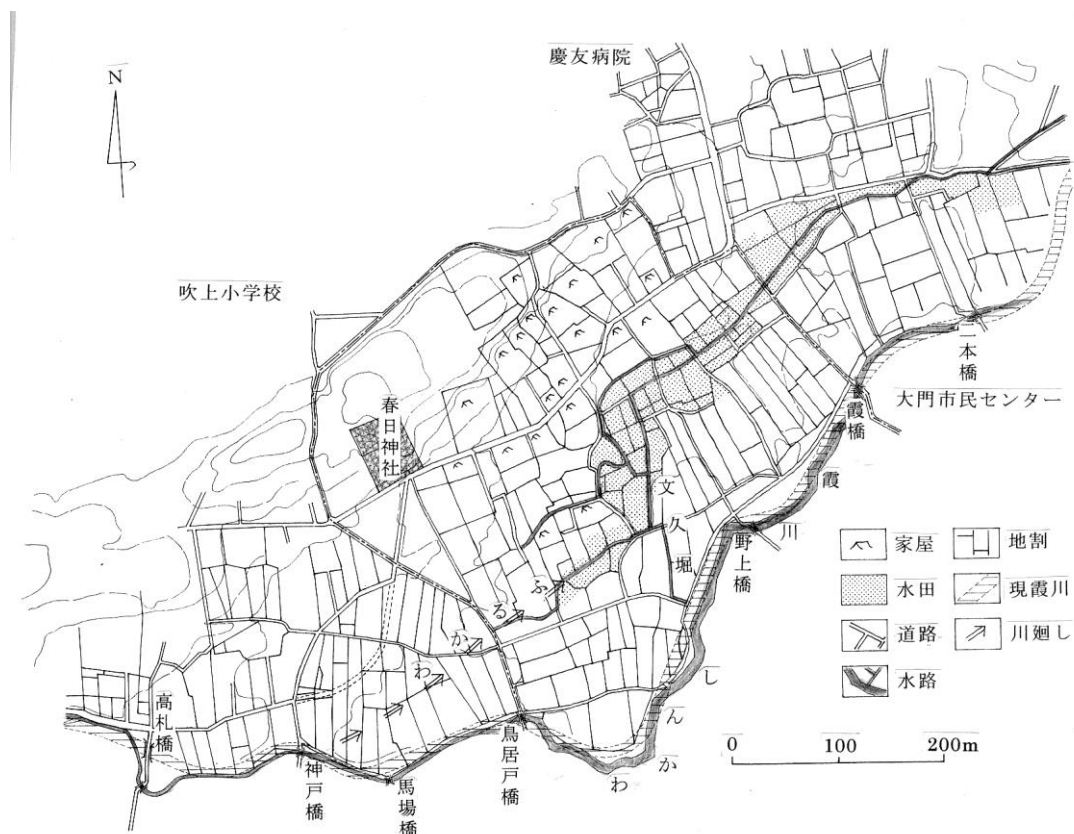


図-2 野上町一丁目にある川廻し